

陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2011年4月-5月号
Vol.19

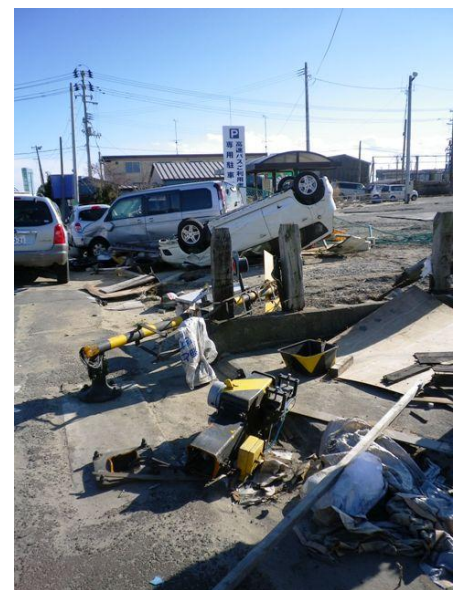
支援者の皆様へ

東日本大震災

3月11日、東北地方太平洋沖で発生した大地震、続く大津波、余震、福島第一原発の事故で被災した方々に心よりお見舞い申し上げます。あまりの被害の甚大さに、ただただ祈ることしか出来ません。「どうか、神の憐れみがこの国に注がれますように。どうか、大切なものを失い心傷ついた全ての人に、慰めと励ましがありますように。」

今回の震災は、物質主義的世界観を土台に、経済成長、物質的豊かさ、便利さ、快適さのみを幸せの指標にして私たちが築いてきたひとつの時代に対する、「答え」であるように思えてなりません。時には人の尊厳や命よりも経済発展を重視してきました社会そのものが、持続可能性という意味で「無理」をはらんでいたということ、私たちは改めて知らされたのではないのでしょうか？日本政府は「復興は従来に戻すという『復旧』を超えて、、、世界で1つのモデルになるような新たな町づくりを目指していきたい。(4月1日 菅総理の記者会見より)」と方針を打ち出しています。これまでの社会の在り方を踏襲するのではなく、「津波にも流されない」確かな価値をこれから創出していく必要があるのではないかと、思わされています。

FVIは、「残された者たちと共に、新たな地域づくりを」目指して、福島県の方々と長期的な関わりを持ち支援活動を展開していくことを決定しました。仙台に多くのボランティア団体が入って支援活動をする一方、福島ではあまり多くの人々が活動していなかったこと、原発の問題がある福島では、地震、津波による物理的な被害に加え、産業全体が深刻なダメージを受けたこと、科学的根拠のない「偏見」によって受けた心の傷など問題は入り組んでおり、現地に残された教会やボランティアグループと共に歩む存在となる誰かが必要なのではないかと、考え、示されたからです。「なされるべきこと」がなされるために、神に聞きつつ必要な協力を得て活動していきたいと願っています。



3月27日撮影 いわき市小名浜地区

祈る他に何か、、、

地震が発生した3月11日2時46分ごろ（日本時間）、私はエチオピアにいました。その時エチオピアは朝の7時台でした。ウォロテスークというテレビもない郊外のフィールドで一日を過ごし、公共バス（小型の旧式トヨタハイエースを改造した乗り物）でゲストハウスに向かう途中、カーラジオから流れるアムハラ語のニュースを隣にいた知り合いの牧師に通訳してもらい、「日本で大地震があったらしい」ということを知りました。その日はもうテレビが見られる近くの店は閉まっていたので、気が気でないまま眠りにつきました。翌朝早く、近くのテレビが見られる食堂まで歩き、ニュースの映像を見たとき、空いた口を閉じることが出来ず、しばらくその場から動けませんでした。私の知っている「日本の街」が流され、崩れ、燃えている、、、。それからの一週間は、「心ここにあらず」という状態で、フィールドに足を運ぶ合間、日に日に事態の深刻さと被害の甚大さが明らかにされていくニュース番組を見続け、インターネットで情報をチェックしました。そして祈り続けました。

3月16日、エチオピアを発つ日の朝、私は現地NGOのHope for Childrenのスタッフ50~60名の前で、日本での全人宣教の働きの紹介と、今回の大地震のための祈りのリクエストを分かち合う事を依頼されました。リーダーのギザチュウ氏に私はひとつの提案をしました。「今回の地震で被害に遭われた方のために、献金を募る、というアイデアについて、どう思いますか？」ギザチュウ氏は「ありがとう。そうさせてもらえるとありがたい。僕らもずっと日本のために何が出来るか祈り話し合ってきた。僕たちは『祈る以外に何か出来ることはないか。』とずっと思ってきた。でも日本はお金持ちで、僕たちはそうではない。お金を送ることが失礼になるのではないかとあって、言いだすのをためらっていたんだ。」

私が日本の課題を分かち合い、今回の地震を通して神様が日本に大切なことを語っておられ、今は日本の歴史が変わろうとしている重要な瞬間だと思う、ということ分かち合うと、そこにいたスタッフにエチオピアと日本の国旗が配られ、皆が涙を流して祈りました。祈った後に献金袋が回り、日本にいる被災者のために捧げられたお金は、**2,963 ブル**でした。これは170米ドルに相当します。アジスアベバの日雇い労働者の一カ月の賃金は30~40米ドル、NGOの職員でも200~300米ドルですので、主に20代~30代の彼らが捧げたこの金額は、決して小さなものではありません。

この献金は私が個人的に預かり、聖協団を通して宮城県で津波の被害に遭われた方々の支援活動に使われました。金額の大きさが問題ではなく、「エチオピアが日本に貢献した」という意味で「歴史的な瞬間」だったと私は感じました。エチオピアの方々が日本を気にかけてくれている、ということを感じ励ましを受けるとともに、世界が互いに支え合い、学び合い、貢献し合う21世紀の国際協力の在り方を学ばせていただいた出来事でもありました。

ギザチュウ氏が私に言ってくれた「祈る他にも何か出来ることがあるか？」という言葉は、私たちが自分の周りにいる方々に仕える上で、大切な姿勢だと思います。今回の震災は、日本全体が被災地、日本人全員が被災者、と言えるほどに被害は甚大、広範、多様なものです。隣人に「祈る他に」何が出来るか、考え、行動していく者でありたいと願われています。



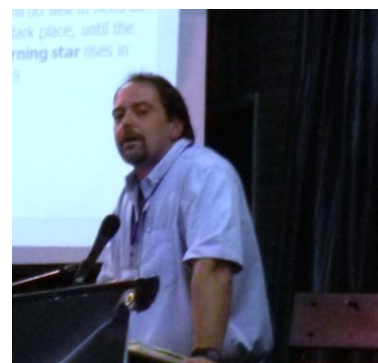
スタッフに献金を募るアレックス氏

第二回 F V I 役員会

1月31日、2月1日に、万座温泉ホテルにおいて第二回のF V I 役員会を開催しました。スタートしたばかりの団体にも関わらず多くの方々に必要とされ、用いていただき、啓発を行わせてきていただいたことを皆で感謝するとともに、今後10年間を見据えて祈る時間でもありました。また、事務、および広報の働きをサポートするため、準スタッフとして奥本希氏、湯本沙友里氏を採用することが決まり、事務体制の充実へ向けて小さな一歩を踏み出すことが出来ました。感謝いたします。

DNA フォーラム 2011

2月27日～3月3日に開催された Disciple Nation Alliance の国際会議に、神田師とともに出席させていただきました。世界28カ国から集まった100余名の、神がもたらそうとしておられる「地域変革」に参加するため、教会を通して全人宣教に取り組むリーダーたちの証は力強く、ヒントになる点も多くありました。世界のリーダーに日本の問題について分かち合い、また適用の一つである「聞き屋」の働きについて分かち合う機会も与えられ、世界中の参加者が「大きなインパクトを与えられた」と言ってくださいました。またこの運動体の創始者、ボブ・モフィット氏、ダロー・ミラー氏らの分かち合いを通し、原則に忠実であることについて、「何故これをしているのか、という点について原点に回帰させていただいた時間でもありました。



写真：ホスト国、南アフリカのHein氏

3月のエチオピア訪問

3月4～17日の間、F V I と相互依存、相互学習による新たなパートナーシップを結んで働いていける団体を模索するため、エチオピアを訪問しました。F V I は「助ける側と受ける側という関係ではなく、友情関係に基づく相互依存的なパートナーシップ」を、21世紀の国際協力の在り方として目指して行きたいと願っています。その関係性に大きく一歩近づくことが出来そうな方々との素晴らしい出会いを与えられました。心から感謝します。次号以降のニュースレターで、働きの内容について皆様と分かち合っていけたらと考えています。お祈りに感謝します。

奉仕と活動（2月～3月）

皆様の祈りに支えられ2月、3月に以下の場所で奉仕させていただきました。関係する教会、地域の方々に感謝いたします。

月日	内容	場所
2月6日	礼拝メッセージ	練馬グレースチャペル
2月9-11日	分科会「地域に仕える教会」	J CMNサミット（豊橋）
2月20日	礼拝での証／インドの働きを紹介	桜ヶ丘キリスト教会（多摩市）
3月1日	F V I の紹介／聞き屋の証	DNAフォーラム（南ア プレトリア）
3月16日	スタッフ礼拝にて証	HFC エチオピア（アジスアベバ）
3月26～31日	東日本大震災支援活動	いわき市、南相馬市、郡山市他（福島県）
継続的に	全人宣教フォローアップと励まし	練馬など国内各地

祈りの課題

- ◇東日本大震災支援活動を展開する福島県で、神が望まれるような働きをすることが出来るように。
- ◇良い出会いが与えられるように。必要なことを学び、必要な備えが与えられるように。
- ◇各地での啓発活動、セミナーを通して動機づけられた人々が継続的に励ましを受け、行動を通して主の栄光を現して行くことが出来るように。

今後の予定

月日	内容	場所
～9月30日（断続的に8回）	東日本大震災支援活動	福島県
4月30日～5月1日	ビジョン・カンファレンス	愛知県蒲郡市
6月5日	地域変革セミナー	長野県伊那市
6月10日	「シオンの集い」講演	さいたま市
6月第13～23日	DNAリーダー会議	アリゾナ（アメリカ）
7月16日	「隣人を愛する習慣作り」セミナー	カンバーランド高座教会（神奈川県）
8月5～8日	聖教団中高生キャンプ	長野県
8月29日	F V I 総会	本郷台キリスト教会（横浜市）
随時継続的に	国内啓発活動およびフォローアップ	国内各地

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」
Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援にご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-9-1889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

*ブログから Prayer Letter をダウンロードくださった方で、振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。振込用紙、ご案内を送らせていただきます。

*2カ月に一度、プレイヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。

*Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。